

要約報告書 ダバオ市で実現した歴史的な国際交流

第3回JKAフィリピン国際合宿・空手道選手権大会2026：2026年8月27日～30日



第3回JKAフィリピン国際合宿・空手道選手権大会2026は、2026年8月27日から30日まで、ダバオ市のフィリピン南東大学（USEP）で開催され、世界水準の指導、規律ある競技、そして国際的な友情に彩られた、忘れがたい4日間となりました。

初期の企画と国際的な広報活動から、選手権の決勝戦、そして感動的なさよならパーティーに至るまで、本大会はJKAフィリピンと、同国における伝統的な松濤館空手道の発展にとって重要な節目となりました。

日本から迎えた世界水準の指導

本大会の最大の特徴の一つは、東京の日本空手協会総本部から、次の3名の著名な指導者が参加したことです。

- Koichiro Okuma 師範
- Tatsuya Naka 師範

- **Koji Chubachi 先生**

最初の2日間、参加者は基本、形、組手について集中的な指導を受けました。また、身体の使い方、タイミング、間合い、精神修養、試合戦略、そして伝統的なJKA空手道のより深い原理にも重点が置かれました。

多くのフィリピン人および海外からの参加者、とりわけ若い空手家にとって、日本の上級指導者から直接指導を受ける機会、この合宿で得た最も貴重で忘れがたい経験の一つとなりました。





ダバオが国際的な空手の拠点に

この合宿には、フィリピン国内外から選手、指導者、高段者、代表団が集まりました。インドネシアとモンゴルの参加により大会の国際性はいっそう高まり、フィリピンの選手たちは、異なる競技環境で鍛えられた空手家と技を競うことができました。

また、スイス、チェコ共和国、ドイツ、スペインとつながりを持つ空手界およびビジネス界からも関心が寄せられ、今後のJKAフィリピンの大会に、より多くの欧州勢が参加する可能性が広がりました。

4日間にわたり、ダバオ市は、空手修行者が学び、競い、国境を越えて友情を育む重要な国際交流の場となりました。

稽古から選手権大会へ

2日間にわたる集中的な合宿稽古を終え、大会は競技へと移りました。

3日目には、幼年、カデット、ジュニア、ユース、一般の各部門で、形と組手の予選が行われました。選手たちには、体力や技術だけでなく、集中力、タイミング、間合い、戦略、そして緊

張の中で判断する力も求められました。

4日目の最終日には、次の種目で優勝決定戦が行われました。

- 個人形
- 個人組手
- 団体形
- 団体組手
- 一般上級・男女各部門

形では、正確さ、バランス、リズム、力強さ、集中力、演武の完成度が評価されました。組手では、スピード、判断力、技の制御、相手の動きを先読みする力が勝敗を分けました。

4日間の稽古と競技を経て、2026年JKAフィリピン国際大会の各部門優勝者が決定しました。一つひとつのメダルは、畳の上で成功した一度の週末だけではなく、長年にわたる準備、規律、犠牲、そして献身の結晶でした。



外交、スポーツ振興、そして公的支援

在ダバオ日本国総領事のOno Hirotaka氏は、空手関係者に向けて挨拶し、日本とフィリピンの友好、ならびに文化交流と人々のつながりを深める空手道の役割について述べました。

ダバオ市スポーツ開発課長のMichael Denton P. Aportadera氏も、本大会を支援したスポーツ界の指導者の一人でした。

本選手権大会は、カダヤワン・フェスティバル、フィリピン・スポーツ委員会、フィリピン南東大学の支援を受けました。各機関の参画により、国際協力、教育、行政、スポーツ振興が結びつくとともに、ダバオ市が大規模な国際スポーツ大会を開催できる能力を備えていることが示されました。

覚書（MOA）の締結により、JKAフィリピン、USEPダバオ支部、在ダバオ日本国総領事館の連携が正式に確立されました。総領事館は、USEPダバオ道場で行われたJKAフィリピンの合宿、昇級・昇段審査、選手権大会、ならびに毎年恒例のカダヤワン・フェスティバルに関連する活動に参加しました。この協定により、USEP道場におけるJKA公式カリキュラムと稽古プログラムの実施体制が強化されました。





指導体制、運営、警備

本合宿の成功は、JKAフィリピンの役員、各支部の責任者、指導者、ボランティア、技術スタッフ、そして公安・警備チームが力を合わせた成果です。

運営は、Gilieto A. Luaque師範（会長）とEmeliano T. Murillo最高経営責任者（CEO）が率いました。また、フィリピン陸軍士官学校出身で、退役警察准将でもあるYsmael Yu先生が、会長顧問として組織を支えました。

海外代表团、日本人師範、選手、役員、観客が集まったことから、警備と公共の安全確保は、合宿期間を通じて最優先事項とされました。

公共安全委員会委員長のRodeno L. Dilag氏は、Engr. Romeo Chavez氏、JKAフィリピン公共安全チーム、ダバオの警備関係機関、軍関係者、USEP警備担当者と連携し、安全対策の調整を監督しました。

こうした連携により、国際大会の全期間を通じて、秩序ある安全な環境が確保されました。



海外の友人をフィリピン流に見送る

各部門の優勝者が決定した後、合宿は、友情、文化交流、フィリピンのおもてなしの心を祝う、温かく喜びに満ちたさよならパーティーで幕を閉じました。最後には「BIG TOSS（ビッグ・トス）」も行われました。

この日のために特別に取り寄せられたセブのレチョン（豚の丸焼き）が、祝宴の中心となりました。やがて音楽が会場を満たし、Ysmael Yu先生がフィリピンの歌を披露。続いてShalie Secuya氏が、来訪した代表团への敬意を込めて日本の歌を歌いました。

Koji Chubachi先生も自ら歌を披露して来賓を驚かせ、盛大な拍手を受けました。その後、空手の黒帯保持者でファッションモデルでもあるDaichi Inomoto氏がフィリピンの歌を歌い、会場は活気あふれる国際的な大合唱へと発展しました。

ともに稽古し、競い合った日本、インドネシア、モンゴル、フィリピンの参加者は、もはや対戦相手ではありませんでした。一つの国際的な空手道ファミリーとして、食事、音楽、笑い、写真、そして思い出を分かち合いました。



単なる大会を超えて

第3回JKAフィリピン国際合宿・空手道選手権大会2026は、単なるスポーツ競技ではありませんでした。

フィリピンの修行者に日本人師範から直接学ぶ機会を提供し、若い空手家に国際的な舞台を与え、参加国間の友情を深め、フィリピン空手道の未来に対する世界的な関心を高めました。

選手権大会は優勝者を生み出しました。合宿は、より強く、より規律ある空手家を育てました。そして、さよならパーティーは、空手道の真の遺産がメダルやトロフィーを超えて受け継がれていくことを示しました。

最後の礼によって競技は終了しましたが、ダバオで得られた知識、規律、友情、そして国際的なつながりは、これからも生き続けます。

第3回JKAフィリピン国際合宿は、単に一つの大会の終わりを告げたものではありません。JKAフィリピンにとって、新たな国際的章の幕開けとなりました。

押忍！

メディア掲載記事

<https://www.jkaphilippines.net/News/>

- <https://www.losangelesdaily.net/all-eyes-in-the-karate-world-turns-to-davao-as-historic-international-gathering-opens>
- <https://philippinetribune.net/jka-philippines-crowns-its-2026-international-champions-in-davao>
- <https://philippineexaminer.com/davao-heats-up-on-day-2-of-jka-international-gasshuku-as-elite-black-belts-take-center-stage>
- <https://italianexaminer.com/final-battle-for-glory-jka-philippines-international-championship-reaches-historic-climax-in-davao>
- <https://eudaily.news/davao-takes-global-karate-spotlight-as-jka-international-championship-opens-under-heightened-security>
- <https://philippine-times.com/historic-jka-philippines-international-competition-opens-in-davao-city>
- <https://philippine.express/jka-philippines-president-emeliano-t-murillo-davao-international-tournament-signals-new-era-for-philippine-karate>